

防災科研 topics

防災科研にまつわるさまざまな情報をお知らせします。

SAG賞(Special Achievement in GIS Award)を受賞

防災科研は、米Esri社のSAG賞(Special Achievement in GIS Award)を受賞しました。これは、様々な情報を時空間的に可視化、共有することで、災害対応の意思決定に加えて災害時に被る経済的な損失をどれだけ減らし、回復をどれだけ早めるかという社会全体のレジリエンス向上にも寄与していることが高く評価されたものです。



受賞した防災科研クライシスレスポンスサイト (NIED-CRS) の一例

日本野球機構(NPB)「備えよう! 防災デー」の動画への制作協力

防災科研は、一般社団法人日本野球機構(NPB)の「備えよう!防災デー」の動画に制作協力しました。プロ野球12球団の選手が防災において大切なことを呼びかけるこれらの動画は、各球団と日本野球機構のウェブサイトやSNS等で公開されています。今年には主に令和2年7月豪雨の被害が甚大であった熊本県・九州地区・広島県の出身、ゆかりのある選手が出演しています。



詳しい内容は、下記URLまたは右記QRコードよりご覧ください。
https://npb.jp/news/detail/20200828_01.html



Dr.ナダレンジャー コロナ禍での出動を再開

Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室を再開しました。コロナ禍での再開であることに配慮し、Dr.ナダレンジャーもマスクとフェイスシールドを着用し、実験を行いました。

Dr.ナダレンジャーの講師派遣のご依頼は、防災科研ウェブサイトよりご連絡ください。

https://www.bosai.go.jp/activity_general/learning/lecture.html



「いばらきアマビエちゃん」の登録

～新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組～

防災科研は、関係者と職員の健康・安全を最優先に、新型コロナウイルス感染症拡大の防止に取り組んでおり、8月7日(金)に、茨城県の感染拡大の防止を目的とした「いばらきアマビエちゃん」につくば本所の事業者登録を行いました。

感染防止対策宣言書

当施設は感染症対策として、以下の対策をすることに努めます。

- ◆ 感染防止対策宣言書を施設の見やすい場所・複数個所に掲示。
- ◆ 施設への入場前、施設利用中において、周囲の人との社会的距離を保つよう表示・周知。
- ◆ 従業員のマスク着用、手洗い、うがいの徹底及び体調・健康管理。
- ◆ 来客等の入場時体調チェック。
- ◆ 来客等に対してマスク着用、手洗い、うがいを周知。
- ◆ 消毒・清掃の徹底（ドアノブ、客席、テーブル、トイレ、利用設備・機材等の共有物）、ハンドドライヤーの使用中止。
- ◆ 定期的な換気。



「いばらきアマビエちゃん」概要 ガイドラインに沿って感染防止に取り組んでいる事業者を応援するとともに、感染者が発生した場合に、その感染者と接触した可能性がある方に対して注意喚起の連絡をすることで、感染拡大の防止を図ることを目的とした茨城県が提供するメール配信システムです。

新潟県村上市より

感謝状をいただきました

首都圏レジリエンス研究推進センターの平田直センター長が、令和元年6月18日に発生した山形県沖の地震における生活再建支援業務の支援に寄与した功績で、新潟県村上市（震度6強）より感謝状をいただきました。

首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト・サブプロジェクト(a)およびデ活の早期被害把握分科会、生活再建分科会の一環として、参画企業とともに上石勲研究統括および田村圭子研究統括（新潟大学）らが、住家被害認定調査や罹災証明発行に係る業務支援を実施し、屋根被害の可視化など被害特性に応じた実践的な研究開発を行いました。



第3回 高専防災コンテストを開催

防災科研と独立行政法人国立高等専門学校機構は、①地域の防災力・減災力の向上、②若い力とアイデアを育てる、③新たな防災地域拠点の形成、④全国に各地の防災の取り組みや技術を水平展開を目的として、平成30年度から「高専防災コンテスト」を共催しています。

「高専防災コンテスト」は、高等専門学校が日ごろ培っている技術・知見・柔軟な発想力を、地域の防災力向上に生かそうという取組で、必要に応じて防災科研の研究者がサポートをします。

コンテスト終了後も引き続き産学連携や共同研究等に発展している事例も出てきています。



親子で気象研究に楽しく参加する 夏休み「ふるリポ! 親子サポーター企画」好評裏に終了

「ふるリポ!」(<https://fururipo.bosai.go.jp/fururipo/>)は、防災科研が運用する激しい気象や身近な水害のレポートシステムです。市民の皆様からのレポート情報は、防災科研が進める、ひょう、雪、雨、風、水害など、災害をもたらす気象に関する研究開発に役立てられるとともに、研究開発及び教育活動で幅広くご利用いただけるよう「ふるリポ!」マップ表示やデータダウンロードサイトで公開するための貴重な情報となります。

今年の夏休み期間には、初の試みとして小学生と保護者が参加する「ふるリポ! 親子サポーター企画」を実施しました。8月1日の親子サポーター任命式には、応募したつくば市内の小学3年生から6年生とその保護者22人が参加。「防災科研市民サポーター」として、夏休みに1日1回以上レポートをする使命を課せられました。22日の終了式では、

見事に使命を果たした小学生サポーター全員に「防災科研市民サポーター認定証」が授与されました。期間中の小学生サポーターのレポート数は748回に及び、8月のレポート総数1,350回の半数以上を占める活躍ぶりでした。

参加者からは、「親子で空を楽しめる機会ができてよかった」「たくさんレポートをしていたら、天気の変化に気づくことができた」「雲と天気の関係についてもっと知りくなった」「気象情報を気にかけるようになった」「余暇を楽しみながら撮った写真が研究に役立つことが素晴らしいと感じた」などの声が聞かれました。

「ふるリポ!」は、これからもさまざまな地域・年齢層の方にもご参加いただけるよう、PRを続けていきます。ぜひ、皆さんもお気軽にアクセスし、お住まいの地域の天気や気象をレポートをしてみてください。



任命式の様子 (8月1日)



終了式での雨粒実験 (8月22日)



任命式の後半には豪雨体験をしました



終了式での竜巻実験 (8月22日)



レポートされた写真は、写真集にして終了式に参加者へお渡ししました

「ふるリポ!」についての詳細はこちらをご覧ください。
<http://mizu.bosai.go.jp/key/fururipo>

「ふるリポ!」ウェブサイト
<https://fururipo.bosai.go.jp/fururipo/>

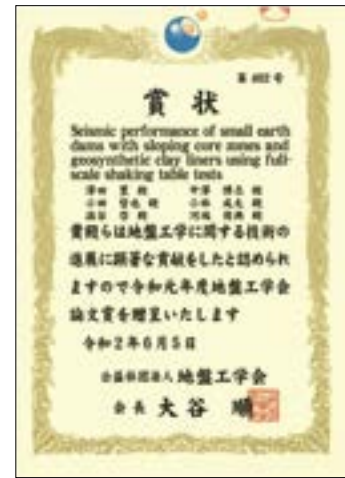


令和元年度地盤工学会論文賞（英文部門）を受賞

地震減災実験研究部門の中澤博志主幹研究員が、神戸大学の澤田豊准教授らとともに、令和元年度地盤工学会論文賞（英文部門）を受賞しました。

受賞対象論文「Seismic performance of small earth dams with sloping core zones and geosynthetic clay liners using full-scale shaking table tests」は、ため池整備の実務に取り入れられる価値を有し、数値解析のベンチマークとしての今後の活用が期待できるなど、学術上の重要な情報を与えていることが高く評価されたものです。

中澤博志主幹研究員は「著者の一人としては、本受賞で、研究上の意義をお認めいただいたこと以上に、行政との共同研究の中で、実験から実装までを考え積み重ねてきた成果が評価されたと感じております。賞をいただくことができ光栄に感じておりますが、実験を支えてくださった多くの方々のご協力があったからこそこの受賞と思っております」と語っています。



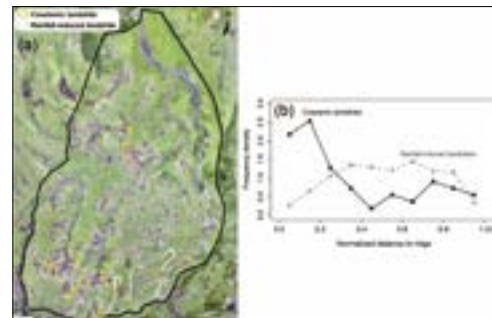
地震減災実験研究部門
中澤博志 主幹研究員

PEPSにおいて The Most Cited Paper Award 2020を受賞

マルチハザードリスク評価研究部門の内山庄一郎特別技術員が、公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）が運営する英文電子ジャーナル PEPS（Progress in Earth and Planetary Science）において、関東学院大学の齋藤仁准教授らとともに、「The Most Cited Paper Award 2020」を受賞しました。

受賞対象論文「Landslides triggered by an earthquake and heavy rainfalls at Aso volcano, Japan, detected by UAS and SfM-MVS photogrammetry」は、2017～2018年PEPSで出版された論文の中から、Web of Scienceにより集計された2019年の被引用回数に基づき、最多被引用論文賞に選ばれたことが評価されたものです。

内山庄一郎特別技術員は「本研究の実施は、地元地権者や自治体、周辺施設等の関係者のご理解とご協力によって成り立っています。ここにあらためて感謝を申し上げますとともに、ここで得られた知見を次の災害の被害低減につなげるよう、引き続き努力してまいります」と語っています。



(a) 2016年熊本地震に伴う斜面崩壊地（黄色ポリゴン）と2012年7月九州北部豪雨に伴う斜面崩壊地（白色ポリゴン）の分布。黒枠は分析対象範囲を示す。
(b) 地震（黒色実線）と豪雨（灰色破線）に伴う斜面崩壊地から尾根までの標準化距離の頻度分布。
標準化距離（x軸）の0.0が尾根、1.0が谷を示す。



マルチハザードリスク評価研究部門
内山庄一郎 特別技術員

地震の予測データとライフラインの支障日数がわかる 「地震10秒診断」を公開

防災科研と一般社団法人 日本損害保険協会（損保協会）では、災害関連データを活用したデジタルコンテンツ「地震10秒診断」を8月28日から公開しています。

「地震10秒診断」は、防災科研から損保協会に提供する「地震の予測データ」と「ライフラインの支障日数シミュレーションデータ」をもとに、損保協会が位置情報システムと組み合わせ、アクセスする利用者の現在位置における、今後30年以内の震度5弱～震度7までの5段階の揺れに見舞われる確率を表示。その規模の地震が起きた場合に想定される、①停電日数、②ガス停止日数、③断水日数、④家屋の全壊確率（木造及び鉄筋コンクリート造）、⑤出火確率の5種類のシミュレーション結果を提供します。

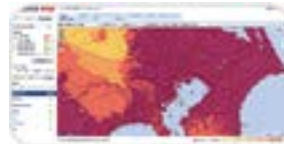
利用者が「現在地で診断」ボタンをワンタップするだけで、簡単に結果を見ることができ、ライフラインの復旧予測は「早い」・「平均」・「遅い」の3段階、家屋の全壊確率は「木造」と「鉄筋コンクリート造」を切り替えて結果を表示できます。



※本コンテンツの利用は、日本国内に限られます。
「地震10秒診断」 <https://www.jishin-hoken.jp/10sec-sim/>

防災科研から損保協会に提供する「地震の予測データ」と「ライフラインの支障日数シミュレーションデータ」

地震の予測データ



位置情報から防災科研が提供するJ-SHIS地震ハザードステーションの「確率論的地震動予測地図」(250メートルメッシュ)のデータ(全ての地震を考慮した最大ケースにおける、30年以内に各震度以上の揺れに見舞われる確率の分布図と、30年以内に3%の確率で一定の揺れに見舞われる計測震度の領域図)を参照して算出しています。

J-SHIS Map
<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map>

ライフラインの支障日数シミュレーションデータ



位置情報から算出した地震の予測データを基に、防災科研が提供する「あなたのまちの直下型地震」で採用している関数を使って各ライフラインの支障日数と出火確率を算出しています。

あなたのまちの直下型地震
<https://nied-weblabo.bosai.go.jp/amcj/>

ご意見・ご感想をお寄せください

防災科研ニュースでは、皆様のご意見・ご感想を募集しております。右記メールアドレスまたはQRコードを読み取りお送りください。郵送・FAXの場合は「企画部 広報・ブランディング推進課 防災科研ニュース係」とご記入ください。なお、いただいたご意見・ご感想につきましては、防災科研ニュースの今後の向上のための貴重な資料として使用させていただきます。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

✉ k-news@bosai.go.jp




〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1
郵送 | 国立研究開発法人 防災科学技術研究所
企画部 広報・ブランディング推進課 防災科研ニュース係
FAX | 029-863-7699

防災科研ニュース 2020 No.210

2020年9月30日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail: k-news@bosai.go.jp

■発行  国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部 広報・ブランディング推進課
防災科研ニュース係 TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (<https://www.bosai.go.jp/>)